



# 平成22年3月期 第2四半期決算説明資料

(平成21年4月～平成21年9月)

平成21年11月13日



証券コード: 1905

# 目次



## 平成22年3月期 第2四半期決算の概要

## 平成22年3月期 業績見通し

- 当資料は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づくものであります。
- 経営環境の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は記載の予想値と大きく異なる結果となる可能性があります。



# 平成22年3月期 第2四半期決算の概要

平成22年3月期 業績見通し

# 平成22年3月期 第2四半期決算の概要



- ▶ 民間建築工事が減少したことなどにより、減収
- ▶ 不採算工事の縮小や経費削減に努めたことなどにより、増益

■ 連結売上高	96億49百万円	前年同期比 38億78百万円( 28.7%) 減 ✓ 建設事業において、民間建築工事が減少したことなどによる
■ 連結営業利益	1億30百万円	前年同期比+29百万円(+29.8%) 増 ✓ 不採算工事の縮小や、経費削減に努めたことなどによる
■ 連結経常利益	1億35百万円	前年同期比+5百万円(+4.1%) 増 ✓ 営業利益の増加などによる
■ 連結四半期純利益	1億49百万円	前年同期比+81百万円(+120.7%) 増 ✓ 営業利益や特別利益の増加などによる
■ 受注高	129億28百万円	前年同期比 4億21百万円( 3.2%) 減 ✓ 建設事業において、民間建築工事が減少したことなどによる
■ 受注残高	82億31百万円	前年同期比+6億25百万円(+8.2%) 増 ✓ 建設事業において、道路などの大型物件を受注したことによる

# 連結損益計算書の概要



▶ 不採算工事の縮小や経費削減に努めたことなどにより、増益

(単位:百万円)

	20/9(上期)		21/9(上期)		前年同期比	
	売上高	売上高比	売上高	売上高比		
売上高	13,528	-	9,649	-	3,878	28.7%
売上原価	12,251	90.6%	8,480	87.9%	3,770	30.8%
売上総利益	1,277	9.4%	1,169	12.1%	108	8.5%
販管費	1,177	8.7%	1,038	10.7%	138	11.8%
営業利益	100	0.7%	130	1.4%	+29	+29.8%
経常利益	130	1.0%	135	1.4%	+5	+4.1%
四半期純利益	67	0.5%	149	1.6%	+81	+120.7%

# 連結貸借対照表の概要



- ▶ 流動資産: 受取手形・完成工事未収入金等が減少
- ▶ 流動負債: 支払手形・工事未払金等が減少

(単位: 百万円)

	21/3末	21/9末	前期末比	
流動資産	13,233	11,910	1,322	10.0%
固定資産	4,318	4,571	+252	+5.9%
資産合計	17,552	16,482	1,069	6.1%
流動負債	7,876	6,317	1,559	19.8%
固定負債	1,077	1,509	+431	+40.1%
(有利子負債)	(742)	(790)	(+47)	(+6.4%)
負債合計	8,954	7,826	1,127	12.6%
純資産合計	8,598	8,655	+57	+0.7%
(自己資本比率)	(47.0%)	(50.6%)	(+3.6ポイント)	-

# 連結キャッシュ・フローの概要



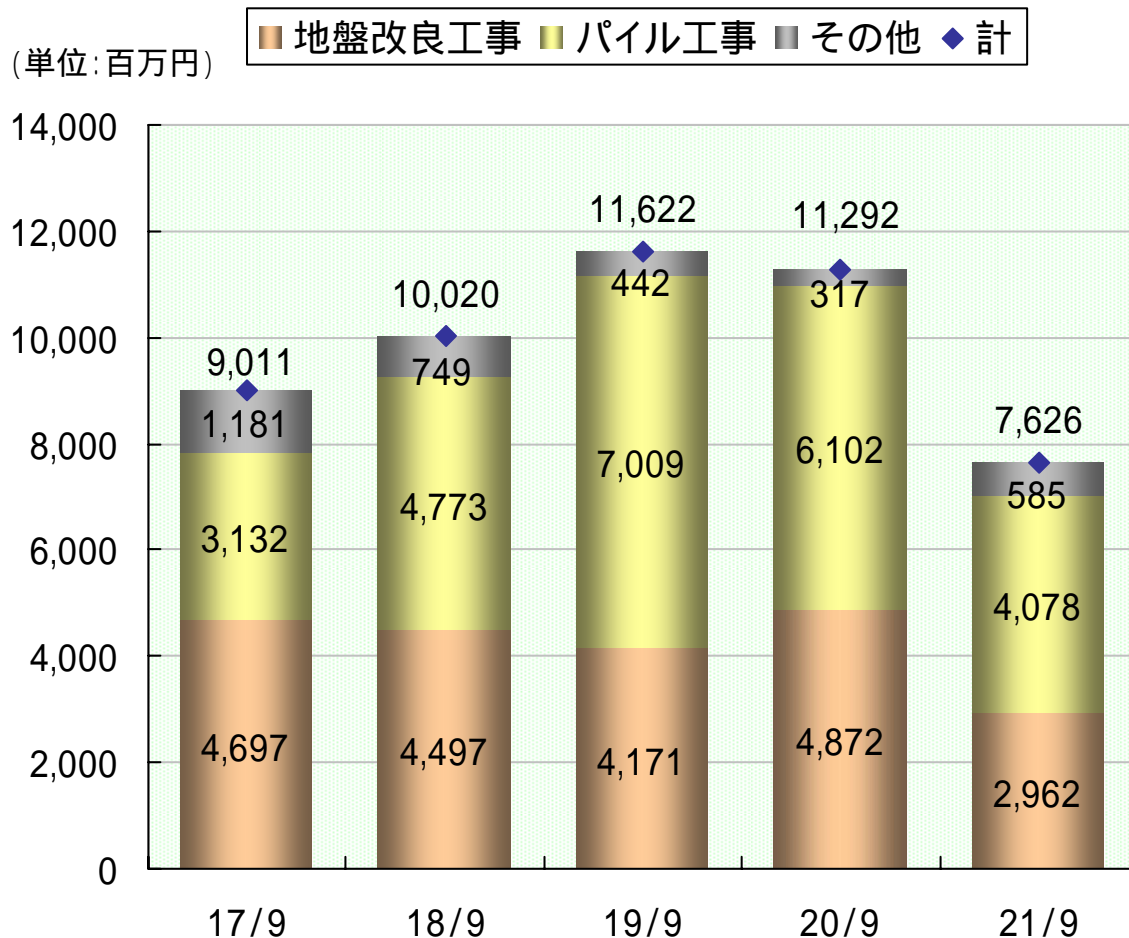
(単位:百万円)

	[参考] 20/9(上期)	21/9(上期)	当四半期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	217	1,349	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 増加: 売上債権の減少 21億40百万円</li> <li>未成工事支出金等の減少 4億86百万円</li> <li>✓ 減少: 仕入債務の減少 11億41百万円</li> <li>未成工事受入金等の減少 6億42百万円</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	91	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 増加: 有形固定資産の売却による収入 1億25百万円</li> <li>✓ 減少: 有形固定資産の取得による支出 1億81百万円</li> </ul>
財務活動による キャッシュ・フロー	22	118	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 減少: 配当金の支払額 68百万円</li> <li>長期借入金の返済による支出 50百万円</li> </ul>
現金及び現金同等物 の増減額	331	1,186	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	3,939	5,060	

# 売上高の推移 (単体)



## セグメントの状況 (単体)



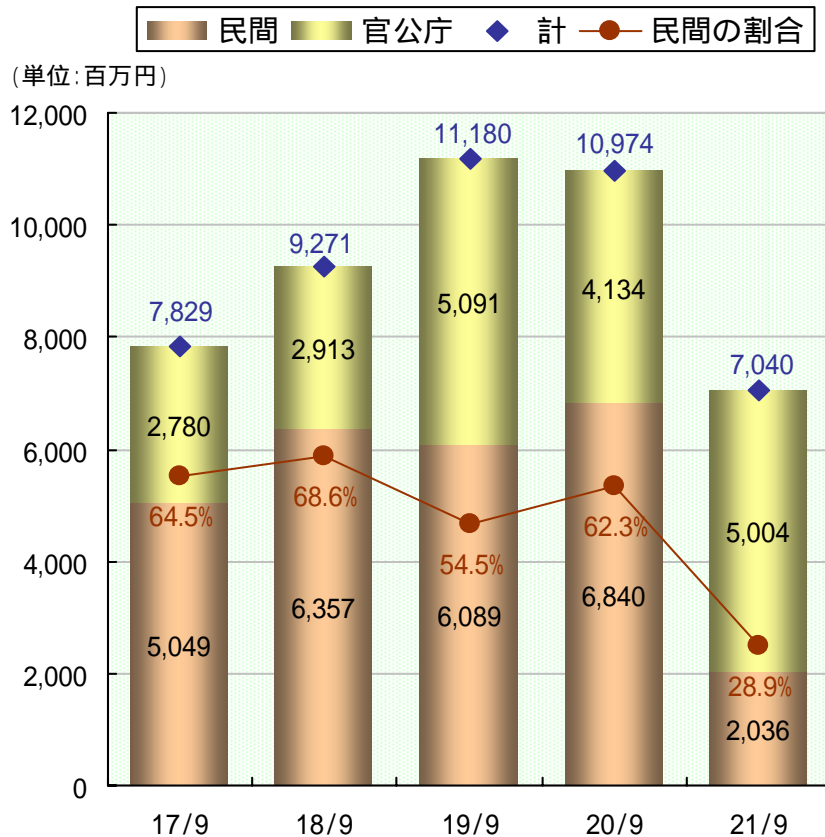
- パイル工事:  
前年同期のような倉庫や病院などの大型物件が減少したことにより減収
- 地盤改良工事:  
マンションや工場などの建築物件が減少したことにより減収



# 完成工事高の状況 (単体)

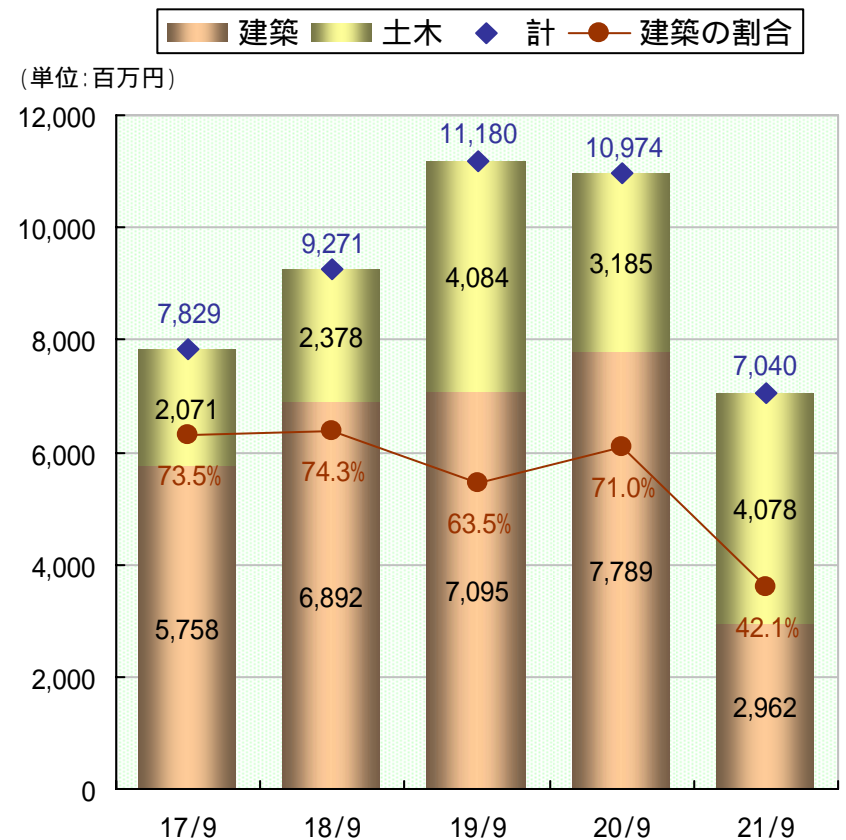


## 民間vs官公庁の推移 (単体)



- 官公庁は、道路など増加
- 民間は、マンションや倉庫など減少

## 建築vs土木の推移 (単体)



- 土木は、道路など増加
- 建築は、マンションや倉庫など減少

# 完成工事高の状況 (単体)



## 工法の構成比率 (単体)

	[参考] 20/9(上期)	21/9(上期)	当四半期の状況
テノコラム	30.5%	29.0%	前年同期比 38.9%減 ✓ マンションなどの建築物件が減少したことによる
ATTコラム	7.9%	9.0%	前年同期比 26.7%減 ✓ 工場などの建築物件が減少したことによる
TN-X	23.6%	0.7%	前年同期比 98.2%減 ✓ 倉庫などの大型物件が減少したことによる
ガンテツパイル	16.6%	43.6%	前年同期比+69.0%増 ✓ 道路関連の高架橋が増加したことによる
NSエコパイル	5.3%	1.1%	前年同期比 86.9%減 ✓ 病院などの物件が減少したことによる
その他	16.1%	16.6%	前年同期比 34.4%減
完成工事高合計	100.0%	100.0%	

注) 構成比率は前期まで総売上高に対する比率で表示しておりましたが、当期より完成工事高に対する比率に変更しております。



平成22年3月期 第2四半期決算の概要

平成22年3月期 業績見通し

# 平成22年3月期 連結業績見通し



建設需要の低迷を受けて受注が低調となり減収が見込まれるが、不採算工事の縮小やコスト削減により増益を想定

■ 連結売上高	《予想》 200億00百万円	21/3期比 61億64百万円( 23.6%)減 ✓ 建設需要の低迷を受けて受注が低調となることを見込まれることによる
■ 連結営業利益	《予想》 2億80百万円	21/3期比+76百万円(+37.3%)増 ✓ 不採算工事の縮小や経費の削減による
■ 連結経常利益	《予想》 3億10百万円	21/3期比+59百万円(+23.6%)増
■ 連結当期純利益	《予想》 2億10百万円	21/3期比+89百万円(+74.4%)増

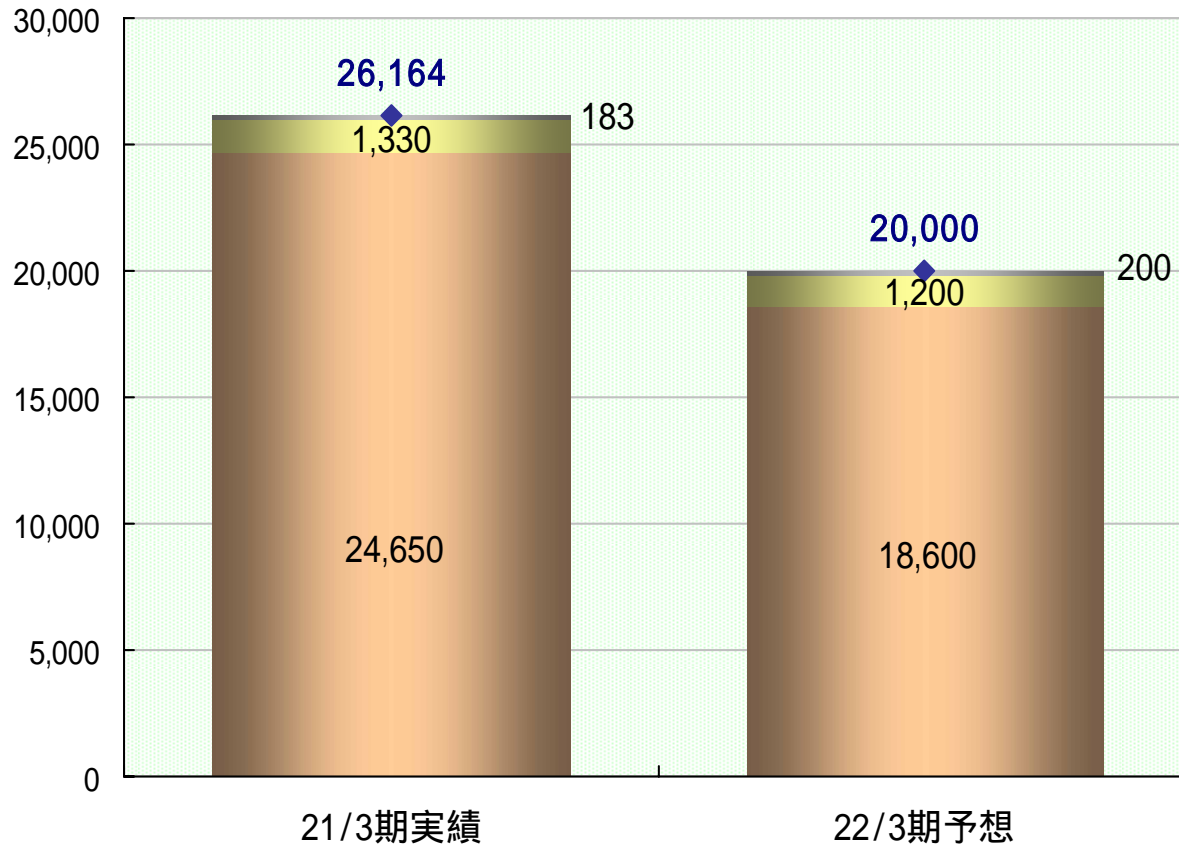
# 売上高の見通し (連結)



## セグメントの見通し(連結)

■ 建設事業 ■ 建設資材販売事業 ■ 土木建築コンサルティング全般等事業 ◆ 計

(単位:百万円)



➤ 建設事業:  
厳しい受注環境が見込まれ  
減収

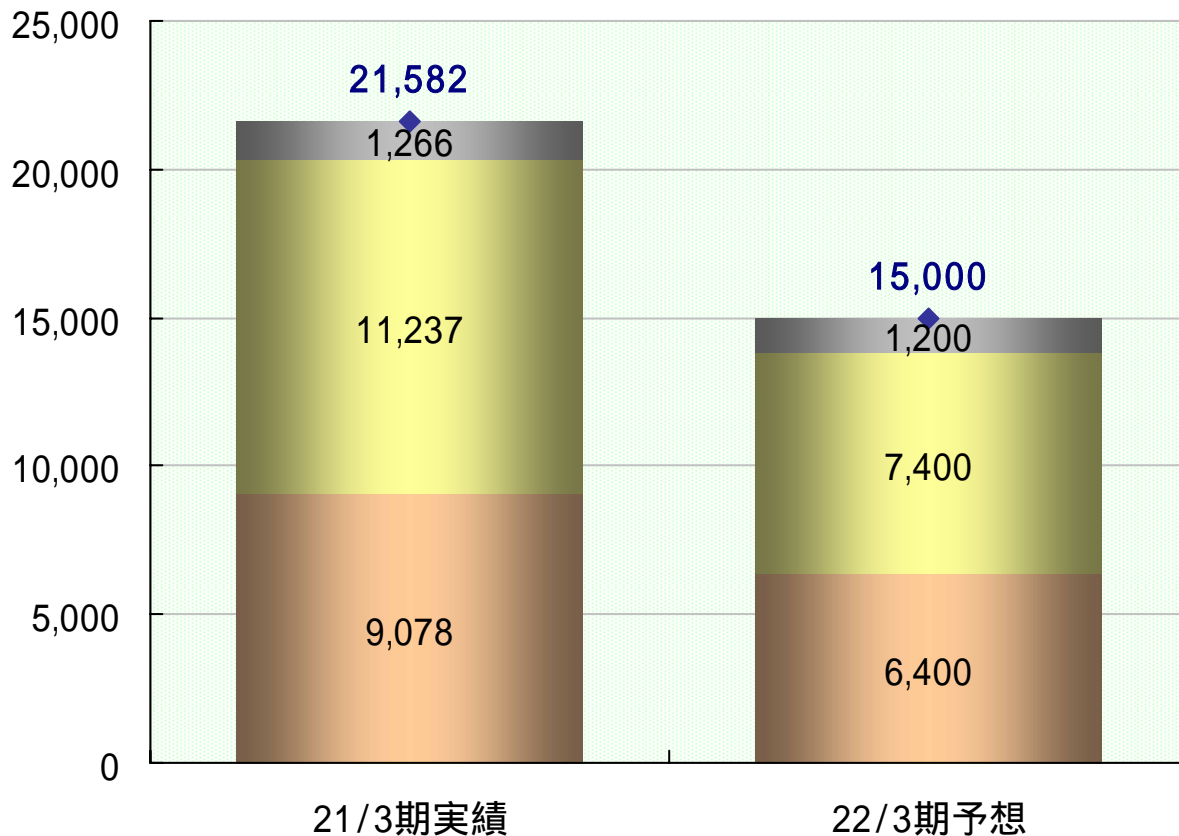
# 売上高の見通し (単体)



## セグメントの見通し (単体)

(単位:百万円)

■ 地盤改良工事 ■ パイル工事 ■ その他 ◆ 計



- パイル工事:  
前年同期のような倉庫や病院などの大型物件が減少したことにより減収
- 地盤改良工事:  
マンションや工場などの建築物件が減少したことにより減収

設備投資を抑制し収益の改善を図る

(単体)

■設備投資額	《予想》 2億50百万円	21/3期比 1億55百万円( 38.4%)減 ✓ 主に設備投資抑制による
■減価償却費	《予想》 4億10百万円	21/3期比 62百万円( 13.1%)減 ✓ 主に耐用年数の経過に伴う減価償却費の減少による
■研究開発費	《予想》 72百万円	21/3期比 19百万円( 21.5%)減 ✓ 主に保有工法の付加価値向上にかかわる投資

弊社を取り巻く  
経営環境は  
大変に厳しい

- 公共投資の縮減  
( 財政難等)
- 民間建設投資も楽観しえない  
( 少子高齢成熟社会)  
( 世界経済の停滞)

弊社の強みを  
最大限に活用

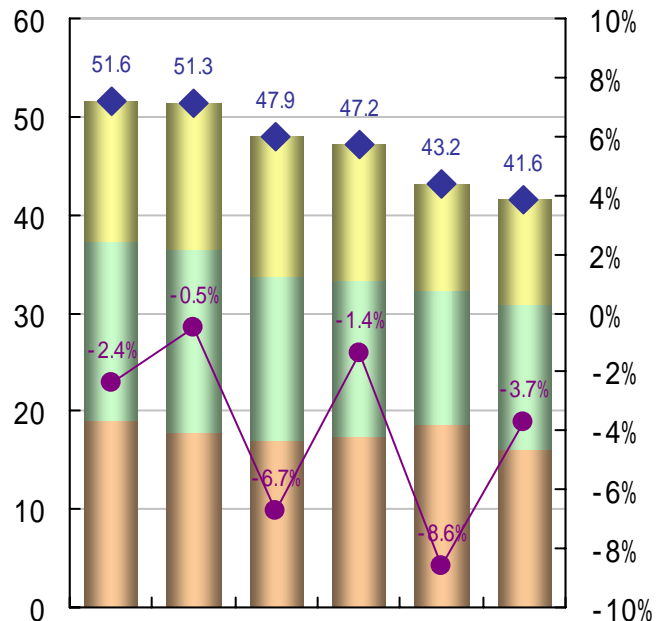
- 独自の高い技術力
- さまざまな環境問題への取組み

現在抱えている  
問題点の把握と解決

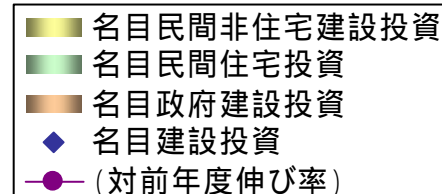
- 低採算部門の健全化
- 更なるコスト削減への取組み

(単位:兆円)

## 建設投資の推移



H17年度  
H18年度  
H19年度(見込み)  
H20年度(見込み)  
H21年度(見通し)  
H22年度(見通し)



出典:「建設経済レポート」No.53(平成21年10月)



## 経営理念：人間尊重・技術志向・積極一貫

私達は、「信頼されるテノックス」として、これからも土や地盤と素直に向き合いながら、積極的に研究・開発を進めていくとともに、安全・確実な施工管理体制のもと、信頼できる施工をご提供していくことをモットーに、お客様のご要望にお応えしてまいります

本社	〒107-8533 東京都港区赤坂六丁目13番7号
設立	昭和45年7月8日
資本金	17億1,090万円
代表者	代表取締役社長 青木 功
従業員数	単体 175名(平均年齢 41.8歳)
営業所	札幌、仙台、金沢、名古屋、大阪、 広島、福岡の7ヶ所
出張所	秋田、米子の2ヶ所
機材センター	船橋

地盤と社会基盤施設との調和を図る



ホームページ：<http://www.tenox.co.jp/>

お問い合わせ先：総務部 IR担当

電話：03-3582-1873

Email：kanbayasi-a@tenox.co.jp